

令和5年1月4日

西部農林水産振興センター益田事務所農業部

標 題

新たな担い手の確保につなげろ！！
津和野高校グローバルラボの活動から（その2）

（ダイジェスト）

イベント等への参加を中心に活動している津和野高校の部活動「グローバルラボ」は自ら作付け計画を考えて栽培した野菜の一部を収穫、調製し今回初めて販売しました。

益田管内では、地域で活躍する農業士をはじめ農業者の方々と協力し、農業系高校と新たな担い手の確保に取り組んでいます。こうした中、新たに普通系高校の津和野高校で農業・農村に興味を持ってもらう取り組みを7月からスタートしたところです。約8aの転作田で家庭菜園を越えた規模での野菜作りに挑戦しており、草刈り・耕耘・定植・収穫・販売まで本格的に取り組みました。農業部では、栽培に関する講習会を行うだけでなく定植から販売までの流れをサポートし、部活動という限られた時間の中で、どんな野菜をどういったスケジュールで管理するのか栽培計画・販路計画を支援しました。

生徒は、栽培面では農薬を使用しないよう防虫ネットを活用するなど工夫し、販売面でも自ら地元道の駅に出向き販売の場を設けられるよう交渉しました。販売当日は、悪天候の中ではありますがポップ・チラシの効果もあり販売開始数時間で完売するほど好評でした。

また、農協から提供された水田園芸品目のキャベツ、ブロッコリーも栽培しましたが生育が良くなく今回の販売に間に合いませんでした。今後、生育の状況をみながら販売第2弾も計画されています。このほか、新入部員を迎えタマネギの収穫も予定しているところです。

この活動を通して、「農家の人たちの大変さがよくわかった。来年はもっと良い野菜を育てたい」などと感じてもらえたことで農業の魅力を体感し、農業を身近に感じてもらい関心を持つきっかけになり、将来農業の担い手になってほしいと思います。



畑を耕す様子



販売の様子